



風水害編



平成12年9月 東海豪雨 新居屋区

風水害編 INDEX

■ 浸水深の目安・浸水想定区域図 ……P.13 ■ 高潮ハザードマップ ……P.58

■ 外水氾濫（洪水）、内水氾濫の違い ……P.14 ■ 雨と風 ……P.63

■ 洪水ハザードマップ ……P.64

● マップの使い方 ……P.15

● 洪水浸水想定区域図

新川 ……P.16 日光川 ……P.20

五条川 ……P.24 蟹江川 ……P.28

福田川 ……P.32 木曾川 ……P.36

庄内川 ……P.40

● 家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食） ……P.44

■ 避難のタイミング ……P.46

■ 内水ハザードマップ ……P.48



ハザードマップは
市公式ウェブサイトでも
確認できます。



これまでに経験したことがない
大雨が各地で頻発しています！

近年は巨大台風や線状降水帯の発生により全国各地で記録的な大雨が発生し、多くの方が犠牲になっています。大半が海拔ゼロメートル地帯であるあま市は、多くの河川が流れ、水の災害に非常に弱い地域です。



浸水深の目安

本誌の洪水ハザードマップにおいて、浸水した場合に想定される水深の目安です。

自宅避難も
選択肢です。
マップで確認
してください。



浸水深	浸水程度の目安
5.0m	2階の屋根以上が浸水
3.0m	2階部分が浸水
1.0m	1階部分が浸水（大人の腰までつかる）
0.5m	床上浸水（大人のヒザまでつかる）
0.3m	床下浸水、車は動かなくなります

洪水浸水想定区域図とは

洪水浸水想定区域図は、水防法の第14条に基づき洪水時の円滑かつ迅速な避難の確保を図るため、想定し得る最大規模の降雨により河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を指定するものであり、浸水した場合に想定される水深等と併せ、洪水浸水想定区域を示した図面です。

洪水浸水想定区域図には、次の2種類があります

(L1) 計画規模 河川整備において基本となる降雨によって浸水することが想定される区域及び水深を表示したもの。

(L2) 想定最大規模 想定し得る最大規模の降雨によって浸水することが想定される区域及び水深を表示したもの。

※本ハザードマップでは、洪水浸水想定区域図の (L2) 想定最大規模を表示しています。

河川毎の洪水浸水想定区域図 ▶P16～

水防法の改正について

水防法の改正により、洪水予報河川及び水位周知河川に加え、それ以外の一級・二級河川のうち、住宅等の防護対象のある全ての河川で洪水浸水想定区域を愛知県が指定しました。



凡 例	
〓	令和6年11月指定
〓	令和7年3月指定
〓	指定対象外
〓	洪水浸水想定区域 指定河川
〓	洪水浸水想定区域 指定河川 (直轄区間)
—	愛知県 市町村境界

外水氾濫(洪水)、内水氾濫の違い

浸水被害は、その原因によって2種類に分類されます。ひとつは河川の水があふれたり、破堤など河川の水が原因で発生する外水氾濫(洪水)。もうひとつは、水路や排水機場などの排水能力以上の雨が降ったり、河川が満水のために河川に排水できず水路から水があふれて発生する内水氾濫です。

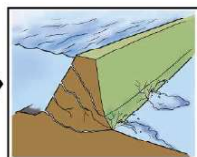
外水氾濫(洪水)

本ハザードマップは、庄内川水系の河川(庄内川・新川・五条川)、日光川水系の河川(日光川、蟹江川、福田川)、木曽川水系の河川(木曽川)が氾濫した場合に、想定される浸水範囲や浸水深の状況を示したもので、市民の皆さんの安全な避難に役立てていただくよう作成したものです。本ハザードマップは、愛知県等の公表資料に基づき作成しています。

水害発生メカニズム



大雨によって川の水が増え、水かさが増え始めます。



堤防いっぱいまで水が増え、堤防に水の圧力がかかり始めます。



水が増え、水の力に堤防が耐えられなくなり、堤防の一部が崩れ始めます。



崩れた場所は一気に溢れ、勢いよく水が流れ出し、家などに襲いかかります。

出典:国土交通省ホームページ (https://www.mlit.go.jp/river/basic_info/jigyo_keikaku/saigai/tisiki/hazardmap/index.html)

※市内の河川別洪水浸水想定 ▶P16～

内水氾濫

本ハザードマップは、大雨によって内水氾濫が予想される場合に想定される浸水範囲や浸水深を示したもので、市民の皆さんの安全な避難に役立てていただくよう作成したものです。

内水氾濫とは…

大雨によって、水路や側溝などで雨水を排水することができず、あふれだす洪水を「内水氾濫」といいます。「内水氾濫」が発生すると、低地や窪地、地下室など水位が深くなる場所があり危険です。また、「内水氾濫」が発生した後に、河川の氾濫による「外水氾濫(洪水)」も予想されるため、災害情報に注意して安全な避難行動をとることが重要です。



※市内の内水氾濫想定 ▶P48～

垂直避難と水平避難

垂直避難

- 自宅の2階などに避難することを垂直避難といいます。
- 各河川の影響を確認し、自宅避難(垂直避難)できるか検討してください。



水平避難

- 自宅避難が厳しいときは、早めの避難(水平避難)を心がけましょう。また、知り合いや親戚宅への避難ができるかも検討してください。



洪水ハザードマップ

○ 早めの避難を躊躇しない！

○ 命を守る行動の決断はあなたしかできない！



マップの使い方

自宅周辺を確認しよう。

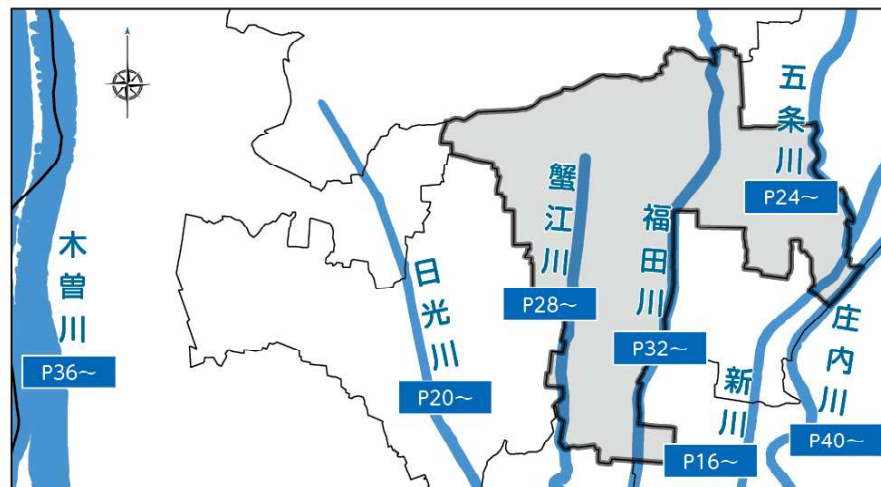
本洪水ハザードマップは、水防法に基づき河川管理者(国又は県)が作成した洪水浸水想定区域図に避難所を重ねて河川毎に表示したものです。

自宅や職場付近の浸水深を**事前に確認**ください。

垂直避難が適さない場合は、**早めの避難**を心がけてください。
(水平避難)

災害の状況に応じて建物の**2階以上へ避難**してください。
(垂直避難)

※ハザードマップに示してある浸水想定区域は、あくまで想定ですので、色がついていない場所でも災害が起こることも考えられます。



「マップあいち」の「水害情報マップ」から愛知県管理河川の浸水想定等のデータが確認できます。

チェック!!

<https://maps.pref.aichi.jp>

マップあいち

検索

